

聴く人に楽しみを提供しながら 自分の進歩も感じられるのが歌の魅力

今回の訪問先は、神戸市灘区で谷眼科医院を営む谷恵美子さんです。
高校の部活動で出会った合唱、そして声楽・オペラへの情熱をご紹介します！



年1回開催する、腫かがやきコンサートの案内チラシ



大阪国際音楽コンクールのメダルと賞状

還暦記念で披露した歌声で
国際コンクールの頂点に！

「第20回大阪音楽国際コンクール」のアマチュア部門シニアコースで優勝することができました。高校時代に歌に出会いましたが、個人でコンクールに挑戦したのは初めて。背中を押してくださったのは、私が還暦の記念にと2018年春に兵庫県立芸術文化センターで開催した「Dr.エミコと仲間たちによる腫かがやきコンサート」に来てくださったお客様でした。クラシック仲間であり医師としての大先輩でもある青山伸郎先生（神戸市中央区・青山クリニック）、メゾソプラノ歌手のナムユカさん、コーラスグループ主宰の松本考巨さん、そして神戸アイセントナー病院の栗本康夫先生に友情出演をいただいたおかげで、定員400名の兵庫県立芸術文化センター小ホールが満席になるほどの盛況ぶりです。私もオペラを独唱しました。その音源を使ってエントリリーしたところ予選を突破したというわけです。

8月の大阪地区大会で高い評価をいただいたことで、ヤル気に火が付きました。審査員からの講評を参考に本選までの1カ月余りにできることをやり尽くそうと、イタリア人指導者による公開レッスンを見学する機会を得たり、オペラを歌う歌手の方に個人的な指導をいただいたりして、発音や表現力を磨きました。最後にひと振りする調味料のようなプラスアルファが、同じ歌にもキラキラとした輝きを加えてくれることを実感しました。

幼少期から音楽に親しみ 仲間の誘いで歌を再開

幼少のころから習い始めたピアノを小学校卒業まで熱心に続けていました。中学に進学してからはバスケットボール部に所属してスポーツを満喫していたのですが、音楽教育に熱心な学校だったこともあり、教室に常設されていたアップライトピアノで友人が伴奏するのに合わせてポプスを歌ったり「ホームルームソング」を作ったり。そして、音楽コンクールで全国大会出場の常連だった神戸高校の合唱部に入ったことが、歌を生涯の趣味とする起点となったのです。

早朝の自主練習に始まり、早弁を済ませてから先輩の指導の下で昼の発声練習、放課後には部員揃っての集合練習と、どっぴり歌漬けの日々を経験できました。

医学部時代は学業が忙しく、卒業した年の秋に結婚、翌年には出産と、プライベートでもめまぐるしい変化があったため、音楽から離れていた時期もありました。ところが、角膜炎研究に関わる実験がひと段落し、娘が中学生になって少し余裕が出てきたころ、高校の同級生たちから「合唱団のコンサートに高校のOBを招くことになったので来ない？」とお誘いをいただき、ついに歌を再開することに。これが、現在所属する「はもーるKOBÉ」の団員としてのスタートでした。

久しぶりに仲間と音を合わせるのほども楽しかった反面、思ったように声が出ないことに対するジレンマも……。そこ

で、休診日である木曜日に音楽家の鈴木文江先生からボイストレーニングを受けることにしたのです。なかなか自分で自分の上達しているかどうか分からないものですが、こうしてコンクールのメダルや賞状を手にしてみると、かれこれ10数年続けてきただけの成果は出せたかなと嬉しくなりますね。

歌の技術もイベント企画も 進歩を求めて学び愉しむ

趣味でも仕事でも、何かしら「進歩」したいと考えているので、2019年5月に開催した第2回の「瞳かがやきコンサート」は、新たにバリトン歌手である牧野正人先生をお招きし、入場料を、視覚障害を持つ方を支援する、公益社団法人NEXT VISIONに寄付させていただくチャリ



歌の仲間たちといっしょに

ティイベントにしました。そして私は、オペラの「椿姫」のアリアや「ボエーム」の二重唱・三重唱にチャレンジ。あえてソプラノの表現力が試される曲を選び、初めてオペラの動きを採り入れてみました。牧野先生やナムユカさんからさまざまなアドバイスをいただきながら練習を繰り返しましたが、難しい分だけ新鮮な感覚もあり、とても楽しかったです。練習には、神戸高校の同窓会館をお借りできてありがたかったです。青山伸郎先生のテノール、高橋玲先生のバイオリン、栗本康夫先生のピアノといった盛りだくさんのプログラムが実現したことも、音楽という趣味と医師という仕事を通じて、素晴らしい仲間恵まれたおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

神戸市医師会の50周年記念行事では、灘区の柴先生と二重唱やアリアを歌わせていただきました。60周年記念行事では青山先生やナムユカさんと歌わせていただく機会をいただきました。兵庫県下の眼科女性医師が集まる「淑瞳会（しゅくどうかい）」には、栗本先生やナムユカさんをお招きして演奏いただきました。ステージでアリアや二重唱を歌い切った貴重な経験と、共に演奏を行った音楽仲間とのご縁が、その後のさまざまな企画の起爆剤となってくれたものと思います。特に音楽仲間とのつながりがどんどん広がっていくことにはワクワクさせられます。

すでに2020年の予定も目白押しです。まずは、大阪音楽国際コンクールの主催者から「第20回目のコンクールを記念し

て各部門の一位受賞者によるガラコンサートを1月7日に兵庫県立芸術文化センター小ホールで開催したい」とのお声掛けがありました。また、2月15日には大阪シンフォニーホールでのドクターズコンサート出演のお誘いが。3月15日には神戸のラ・スイートオーシャンズガーデンにて受賞記念ランチコンサートの企画が。4月4日は松本治朗先生（灘区・松本医院）の落語と奥様の松本考巨様との音と笑いの企画ステージに参加予定です。そして5月21日には「第3回瞳かがやきコンサート」を音楽仲間たちと企画中です。

第3回瞳かがやきコンサートでは、私はオペラ「ファウスト」よりアリアと二重唱を予定しています。フランス語ですが字幕付きの演奏です。また、後半では「メリー・ウイドウ」のアリアと二重唱を。他に2台のピアノによる協奏曲やバイオリン演奏など、バラエティ豊かな演奏会を予定しています。高いハードルに挑み続けることができるのは、「飽きずに聴けた」「また参加したい」と皆さんが言葉をかけてくださることが私のパワーになっていくからに違いありません。周りの方々と愉しみを分かち合いながら自らも進歩できる歌を、できるだけ長く続けていきたいですね。

谷 恵美子さん (たに えみこ)

1958年生まれ。83年神戸大学医学部卒業後、神戸大学附属病院での研修を経て85年に兵庫県立こども病院に勤務。済生会兵庫県病院、六甲病院でキャリアを積み、95年5月に「谷眼科医院」を開業。2005年に現在の神戸市灘区森後町に移る。95年当組合に加入。